

TOP の決断

株式会社菰下鋳断
代表取締役社長

菰下茂夫氏

KOMOSHITA Shigeo



2021年8月



本社工場近くに、厚板の2次・3次加工の拠点工場を稼働させました。目的は、新たな需要を開拓する提案型営業の能力強化です。

写真／高田ますみ

鉄素材を融点以上に熱し、溶かしながら切り離すことを「ようだん鋳断」と言う。こもした菰下鋳断は、精密鋳断に卓越した企業であり、この分野の日本のパイオニアだ。造船・産業機械・工作機械・建設機械などの国内基幹産業を中心に、顧客は約1000社。他社が追随できない技術力で、厚さ最大1mもの板材を、ニーズに合わせ精密に鋳断できる。少量多品種を迅速に生産し、不況時にも黒字経営を続けて自己資本率は70%超。加工能力の拡大によって、さらなる成長を目指している。聞き手／りそな総合研究所代表取締役社長 米谷高史

——1936年(昭和11)、大阪市内でお父さまの菰下茂さまがご創業。鋸断を日本でビジネス化した。パイオニアとのことですが、鋸断の技術はそれまで日本になかったのですか。

菰下 鉄鋼メーカーさんが自社でされる鋸断はありましたが、事業として専門にやる会社はありませんでした。創業2年後の大阪の電話帳に、「菰下鋸断 鋼鉄精密鋸断」と記載されています。当時の鋼板の切断は、「シャーリング」という2枚の刃で挟んで切るやり方が主流でした。

——鋼板が分厚いとシャーリングでは切りにくい。鋸断なら厚板を溶かして切れる。でも鋸断の専門会社はなかった。お父さまが鋸断を選ばれたのは、どのようなきっかけだったのですか。

菰下 父は海軍の軍人で、軍艦建造に携わりましてね。それまで砲の台座の穴はドリルで開けていたのですが、父はガスで精密に鋸断して時間短縮する方法を発見したのです。それで精密鋸断の会社を興しました。

在庫する鋼板は常時3万トン。

機械化と職人技の融合で、

高精度・高品質な鋸断を実現

——現在では多くの金属加工会社が鋸断をされていますが、その中でも御社は独自の技術力を発揮されているとお聞きしました。



独自の低圧ガスによる精密鋸断

菰下 鋸断には通常、高圧ガスを使うのですが、当社は低圧ガスで切ります。理由は低圧のほうが切断面がきれいだから。切断する板材の厚みが増せば増すほど、高圧ガスと差が出ます。特殊鋼では鋸断の切断面から亀裂が入ることがありますが、それも低圧でやれば起こりにくい。

ただ、低圧ガス鋸断にはノウハウがあるので。当社工場で使用しているガス鋸断装置は自社で設計開発したもので、装置に関する各種の特許も取りました。そうした基本を踏まえてコンピューター制御した最新の自動精密鋸断設備で、お客さまの注文にお応えしています。量産品は作っておらず、基本的に多品種・少量生産です。

——今、顧客数はどれくらいですか。

菰下 約1000社です。
——それだけ多数の企業の、多種多様な注文をこなせるのは、自動化のたまものですね。

菰下 いや、私たちの精密鋸断は機械化と職人技が融合した結晶なのです。というのは、鉄は生き物です。同じ種類の鋼材でも、メーカーや季節によって微妙な反りや表面の状態の差があるのです。それを鋸断加工時の火花や音の出方から判断しながら、火口の炎の

角度や強さを調整することで、的確な切断ができる。商売として効率はよくありませんが、間違いなく高精度・高品質の鋸断になる。さらに、熱処理による強度増しやひずみ取りも、私どもの手の内で完結します。付加価値の高い鋸断ができるのが当社の強みです。

そして、ご注文に迅速な納品でお応えするため、各種の鋼板を合計約3万トン常時在庫しています。というのは、注文を受けてから必要な鋼板を鉄鋼メーカーさんから取り寄せると、数カ月かかるのです。鋼板の在庫のあり方を検討するため、生産状況は毎日チェックします。

——御社は自己資本率70%で、財務基盤が強固。だからこそ3万トンもの在庫を抱えることができる。技術力とマネジメント力の両面で、



本社工場とその設備(大阪府貝塚市)



鋸断で作られた各種製品

強い競争力ですね。

「四方良し」の精神で、
顧客の要求よりさらに優れた
製品の実現に情熱を傾ける

—— 御社の企業理念である「四方良し」についてお聞かせ下さい。

菰下 これは近江商人の精神である「売り手・買い手・世間の三方良し」に、「作り手良し」を加えたものです。

私どもは第1に、買い手に喜ばれる製品を実現するのが使命。作り手として日々技術を磨き、知恵を絞るわけですが、そこにもう一つ、世間に貢献する使命もある。二つを両立させ、お客さまにも社会にも迎合や妥協をしないモノ作りをしてこそ、私たちは生み出すものから

真の喜びを得られ、誇り高くいられます。言い換えれば、お客さまと対等の立場で意見を述べ、要求されたレベルよりさらに優れた製品を実現しようと情熱を傾ける。「対等」ということは、1000社あるお客さまのすべてが、当社にとって分け隔てなく大切だということでもあります。

—— 「作り手良し」には、従業員の皆さんを大切にするという意味もありますね。

菰下 おっしゃるとおりです。子育て支援のための託児所や、健康増進のためのスポーツジムを備えていますし、最近、5階建ての社員寮も作りました。また営業利益の一定割合を、賞与に還元しています。

チームワークを育てるため、1年を通じて各種のイベントも実施しています。例えば本社工

場で開く盆踊り、バーベキュー、餅つき大会など。従業員やその家族の皆さんだけでなく、お取引先や地元商工会議所の方々にもご参加いただいています。

ワンストップで2次・3次の
加工ができる新工場の稼働により、
新たな市場を獲得する

—— 2021年(令和3)8月に、ちぎり工場という新工場を開設されました。

菰下 鋸断した厚板の、2次・3次加工の拠点です。本社工場に近い大阪湾の人工島・岸和田ちぎりアイランドにあります。開設した目的は、新たな需要を開拓する提案型営業の能力強化です。母材から製缶までの厚板加工を、ワンストップでできます。

—— 製缶とはどのような工程ですか。

菰下 板の切断、曲げ、溶接などによって、立



りそな総合研究所
代表取締役社長 米谷高史



体的な加工物を作ることで、特に大型の立体物、例えば建物の骨組み、機械のフレーム、タンクなどの容器加工を指します。新工場の稼働で便利

性が増したと評価していただき、すぐに大型加工物件の発注をいただきました。そのため同年中に、より規模の大きな製品加工への対応を進め、主要設備から付帯設備まで、すべての耐荷重性能を2倍の30トンに引き上げました。おかげさまで、土木機器・産業機器の分野でお取引が増えており、それ以外の分野でも、加工案件のご提案に取り組んでいます。市場獲得の伸び代は大きいと思います。

グループの技術力とサービスを製販一体で向上させ、日本の産業発展に貢献する

—— 今後の事業展望をお聞かせ下さい。
菰下 今、新エネルギー分野の需要獲得に注力しています。例えば洋上風力発電の浮体設備。ちきり工場に必要な厚板加工ができます

し、対応力を高めるため工場設備の拡張・増設も計画中です。2次・3次加工はすそ野が広いので、協力企業さんとの生産ネットワーク強化も進めています。

—— 御社はグループ会社として、ガラス鋼管、高圧配管用継手、極厚精密鋸断、レーザー切断、切削加工などの各専門メーカーや、各種金属の加工・販売・輸出の会社などがあり、総合力を発揮した展開も期待できますね。

菰下 安くて丈夫なのが鉄です。私たちの生活と深く結びついていて、将来的にも社会インフラとして欠かせません。それに、当社が生産する少量多品種の鋼材製品は、海外で作るより国内で作ったほうが絶対に安くできる。当社とグループ企業の技術力・サービス力を



本社(大阪府貝塚市)

さらに高め、日本の産業発展のお役に立つよう、今後とも製販一体で能力の向上に努めたいと思います。

—— 御社の「四方よし」が、ますます大きな輪となることを期待しております。

PROFILE

- 創業 1936年(昭和11)6月
- 設立 1952年(昭和27)4月
- 資本金 201百万円
- 従業員数 208名
- 事業内容 各種鋸断品、高圧継手品、ガラス鋼管、化学プラント機器等の製造販売
- 所在地 〒597-0095
大阪府貝塚市港14-2
TEL 072-432-0301
FAX 072-431-9200
URL <https://www.komoshita.co.jp>
- 取引店 関西みらい銀行本町営業部
りそな銀行貝塚支店

interview後記

アメリカの実業家で詩人としても知られるサミュエル・ウルマンは、「青春とは心のあり方」だと言っている。まさに、菰下社長はそれを表した方。洋上風力の技術的な課題等、その探求心には感服。

私たちも、一人ひとりの心の持ち方が、未来を決定するのだろう、と強く感じました。

(米谷)